

## EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(16)(HP 収載)

### —Marantz7 による調整(5)—

#### 1. 始めに

前報(15)に引き続き、Marantz7 によるトーンコントロールの調整の効果イコライザーカーブ毎に詳細を詰めていきます。

#### 2. トーンコントロールの調整方法

次の再生経路を設定します。

##### 再生経路 1

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (EQ 可変) →Brooklyn DAC+

\*ZANDEN Model 120 の EQ カーブの最適条件で再生する。

##### 再生経路 2

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (RIAA 固定) →Marantz7 (ライン入力)

→Brooklyn DAC+

\*ZANDEN Model 120 は RIAA に固定し、Marantz7 のトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

##### 再生経路 3

Thorens TD124→My Sonic STAGE 1030→Marantz7 (フォノ入力) →

Brooklyn DAC+

\*Marantz7 は RIAA でトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

音源は EQ カーブの異なるアナログ盤を準備します。今回は DECCA カーブと思われる次の盤を選択します。

LONDON CS 6366

ベートーヴェン ピアノソナタ 18 番

バックハウス

LONDON KIJC 9180/84

ワーグナー ワルキューレ

シオルティ指揮ウイーンフィル

#### 3. トーンコントロールの調整結果

再生経路 1 では、ベートーヴェンのピアノソナタ 18 番は、DECCA、R、第 4 時定数 Mid で再生し、バックハウスの弾く、おそらくはベーゼンドルファーのどっしりとし

た力強いピアノリズムが響きます。

ワーグナーのワルキューレは、**DECCA、R、第4時定数 Mid** で再生し、オーケストラの分離もよく、押出しもあり、ソリスト達の定位もよく歌唱が明晰です。

再生経路2では、ベートーヴェンのピアノソナタ18番は、**RIAA、N、第4時定数 High** で再生し、**Marantz7**のトーンコントロールの**Treble**を1ノッチ上げ、**Bass**を1ノッチ下げ、**Brooklyn DAC+**で位相反転することにより、高域の打鍵は鋭く、低域はしまりがでて、音の曖昧さが解消します。こういった対応をとらないと音の焦点が定まりません。

ワーグナーのワルキューレは、**RIAA、N、第4時定数 High** で再生し、**Marantz7**のトーンコントロールの**Treble**を1ノッチあげ、**Bass**はフラットでもよいかと思われませんが、1ノッチ下げ、**Brooklyn DAC+**で位相反転することにより、オーケストラの切れも押出しもよく、ソリスト達の定位もよく歌唱が明晰です。こういった対応をとらないと、音に曖昧さが残り、ソリスト達の歌唱がぼやけます。

再生経路3では、ベートーヴェンのピアノソナタ18番は、**RIAA**で再生し、**Marantz7**のトーンコントロールを再生経路2と同様にし、**Brooklyn DAC+**で位相反転することにより、打鍵の力強さがありながら、音の柔らかさもでてきます。

ワーグナーのワルキューレは、**RIAA**で再生し、**Marantz7**のトーンコントロールを再生経路2と同様にし、**Brooklyn DAC+**で位相反転することにより、ホルンやトロンボーンの迫力が増し、全般的に真空管のフォノステージらしさが感じられます。

#### 4. まとめ

イコライザーカーブが**RIAA**でない盤を**RIAA**で再生した場合の違和感を**Marantz7**のトーンコントロールを調整することで、一定程度カバーすることができました。

以上